



し

世界史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

1. この問題用紙は、16 ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合し、確認すること。
3. 解答用紙の所定の欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定の欄にマークするか、または所定の欄に記述すること。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入しなさい。
6. 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。また所定以外のところには、絶対に記入しないこと。
8. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
9. 解答用紙は、持ち帰らないこと。
10. この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
11. この試験時間は、60 分である。
12. 解答をマークする場合の注意。

(マーク記入例)

| 良い例 | 悪い例 |
|---|---|
|  |  |

〔 I 〕 次の文章をよく読み、下記の設問に答えなさい。

古代ギリシアの歴史家で「歴史の父」と称される が、「エジプトはナイルのたまもの」と述べたごとく、古代エジプト文明は大河の定期的な氾濫の恩恵を受け、繁栄を維持した。また、メソポタミア文明はティグリス・ユーフラテス川流域に、インダス文明はインダス川流域に、黄河文明は黄河流域に発生した。また、インド亜大陸には、紀元前 1000 年頃、アーリヤ人がガンジス川流域に進入し、定着し、その後インドの古代国家を築いた。さらに、古代中国では黄河文明とならび長江流域にも、四川三星堆遺跡に代表される長江文明が存在した。

黄河流域、すなわち現代の華北は乾燥しており、森林も極めて少ない。だが、古代においては、華北も温暖湿潤であり、森林も多く、多くの沼沢地帯が存在していたと考えられている。河南安陽の遺跡である から大量に出土した甲骨には、狩猟に関する占いも多い。王やその臣下はしきりに狩猟に出かけており、王都の周囲には多数の動物が生息する森林が広がっていたと考えられる。

華北平原・黄淮平原には、黄河や淮河の分流・派川が多数存在し、華北の地もまた、水上交通は盛んであったとされる。宋代においても華北に大きな沼沢地帯が存在したことは、北宋における宋江を首領とし、梁山泊を拠点に活躍する義賊の世界を描いた小説『 』によっても知られる。梁山泊とは山東省にあった大沼沢地帯である。

華北一帯に厚く堆積する は、砂漠地帯から風によって運ばれてきた細粒化した土によって形成されたものである。春秋戦国時代以降、鉄製農具が普及し、華北の開発が進み、森林が少なくなるにつれ、華北の乾燥化はいつそう進行した。華北においては、土地の乾燥化とともに、それに耐える農法が試みられるようになり、できるかぎり土中の水分を失わないようにして作物を育てる旱地農法が成立した。

中国における南北の交通手段の相違を表すことばに「南船北馬」があるが、古代の華北においては、水上交通は決して少ないわけではなかった。華北の乾燥化が進み、長江以南が開発され、水稻を中心とした農業が発展するにつれ、南方から

北方への主穀や物資の輸送が重要な課題となった。大運河の建設はその課題に
えるものであったが、その建設のため人民に大きな負担をかけた。これは、三度
の オ 遠征の失敗とともに、煬帝の失政に数えられ、隋朝滅亡^aの大きな要
因となった。

一般に遊牧民族は農耕民族とは異なり、農耕民族の征服者となっても灌漑や治
水について関心が薄いといわれている。だが、アケメネス朝やササン朝の君主た
ちは、メソポタミア征服後、その重要性を理解し、水利に十分な関心をはらった
といわれている。モンゴルのフビライは征服王朝元を樹立した後、すぐれた水利
家・天文家である カ を重用し、最高位の水利官である都水監に任命して
いる。同じく征服王朝である清朝^bの康熙帝は、自己の政務の三大事として三藩・
河務・漕運を挙げたことがある。三藩とは漢人武将である キ ^{しょうかき}・尚可喜・
こうけいも 耿繼茂の三つの勢力のことであり、朝廷の重大な脅威であった。河務とは黄河の
治水であり、漕運とは大運河を中心として主穀や物資を首都や軍屯地に搬送する
ことであり、三大事の二つまでが、水利にかかわることがらであったことが知ら
れる。

黄河は天井川であった。上流から運ばれてくる土砂が下流の堤防内に堆積し、
川床を上昇させる。結局は川床が附近の平地よりも高くなる。それは氾濫の可能
性を高めることになり、河流を安定させるためには、川底にたまった泥土を定期
的にさらう必要がある。そのためには農閑期に多くの農民を動員せねばならず、
容易な仕事ではなかった。堤防が決壊すれば、さらに堤防を高く大きくしなければ
ならず、川床の上昇と堤防強化のいたちごっこが続くことになる。特に宋代^c以
降、時代を下るごとに、黄河の氾濫は増えていった。

また、宋代には北方の遊牧民族の攻勢を阻止するため、黄河の堤防を決壊させ
ることまで行なわれた。1128年、宋軍は金軍の南下を防ぐため現在の河南省に
おいて黄河南岸の堤防を決壊させた。黄河は南流し、淮河に流れ込み、黄海に注
ぐことになった。この作戦によって金軍の進撃は食い止められたものの、住民多
数が犠牲となった。元明期を通じて黄河の南流は続き、大量の土砂で淮河をつま
らせることになった。元末の反乱は、黄河の土木工事に駆り出された大量の人夫
たちの不満の噴出が発端であった。彼らは ク の教主韓山童の遺児、韓林

兇に率いられ元朝に対し蜂起した。彼らが敗れた後も反乱は続き、元をモンゴル高原に退けた朱元璋によって明が樹立される。

黄河の水は大量の土砂を含む。黄河が淮河に流れ込むことは多くの弊害をもたらした。清代に入っても、黄河の南流は続き、多発する災害により、黄河から長江へかけての平原地帯に多くの流民を生む結果となった。

広西に興った太平天国は、1853年、南京を攻略し、天京と名づけた。また、平等主義的な土地制度^d を施行しようとしたが実現しなかったといわれる。同年、太平天国軍は精鋭からなる北伐軍を編成し、清朝の打倒を目指し、北上させた。北伐軍は、途中、洪水に進軍を阻まれ、清軍はその間に態勢を立て直し、反撃する機会をえた。その後、北伐軍は敗北する。1855年の大決壊により、黄河は再び北流し渤海湾に注ぐことになった。

1938年6月9日、中国国民党軍は、武漢三鎮の占領を目指す日本軍の南下を阻止するため、河南省鄭州付近において黄河南岸の堤防を爆破し、洪水を引き起こさせた。結果として、多数の被災者を出すことになった。日本軍は一時的に進軍の速度を緩めたものの、10月末には、武漢を占領している。

灌漑にも輸送にも利用される河川は、20世紀に入るや電力開発にも用いられることになった。長江に作られた三峡ダムは、エジプトの近代化をはかるためにナセル時代に建設が進められた とともに、その最も大規模な例である。

設問 1 文中の空欄(ア～コ)にもっとも適する語句を記入しなさい。

設問 2 文中の下線部(a～e)に関する下記の質問に漢字で答えなさい。

- a 隋に代った唐朝は広大な版図をもつ大帝国であったが、雲南に起こり、唐と吐蕃の間で自立をはかり、雲貴高原を支配した王国の名前を記しなさい。
- b 雍正帝・乾隆帝に仕えたイエズス会宣教師、カステイリオーネが設計に参画したとされる清朝の離宮・庭園の名前を記しなさい。
- c 宋代の高級官吏は水利に明るいものが多かった。『新唐書』『新五代史』の編纂者も同様であったが、この編纂者の名前を記しなさい。
- d 太平天国は、女子の発育に悪い影響を及ぼす、ある伝統的風習を廃止したが、その風習の名前を記しなさい。
- e 唐代の中国東北地方において渤海を建国したのは誰か、その名前を記しなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章(ア～ウ)をよく読み、文中の空欄(1～10)にもっとも適する語句を記入しなさい。

ア 第二次世界大戦終結前の1944年7月、連合国44カ国の代表はアメリカ合衆国のニューハンプシャー州ブレトン＝ウッズに集まり、連合国通貨金融会議が開催された。議題の内容は、戦後国際経済秩序に関してであった。そして、国際通貨基金(IMF)と [1] の二つの機関が設立されることが決まった。IMFは1944年7月1日時点で金1オンス(約31.1グラム)=35ドルという交換比率を決めるとともに、これを基準にしてアメリカ合衆国のドルと各国通貨の交換比率も固定した。この固定為替相場制にもとづいた国際通貨体制を [2] と呼んでいる。その後、アメリカ合衆国は1947年6月、援助を通じたヨーロッパの経済復興計画である [3] を発表した。一方、ソ連・東欧諸国は援助の受け入れを拒否し、国際的な共産党の情報交換機関である共産党情報局、いわゆる [4] を結成した。

イ ソ連邦崩壊後の経済運営において計画経済から市場経済への移行を進め、ロシア共和国(後にロシア連邦へ改称)大統領となったのがエリツィンである。彼の主導によって1991年12月、旧ソ連邦内11の共和国で形成されたのが、 [5] であった。エリツィンの後、2000年に大統領に就任したのが、元KGB(旧ソ連国家保安委員会)将校の [6] である。その後を引き継いで、2008～2012年の間にロシア連邦の第3代大統領をつとめたのが、 [7] である。この時期、 [6] が大統領の任期を終えた後も首相を務めたことから、双頭体制と呼ばれた。

ウ 2001年9月11日、ニューヨークの世界貿易センタービルとアメリカ合衆国の国防総省などに対する自爆テロ事件が起きた。この同時多発テロ事件を契機に「対テロ戦争」を宣言したのが、当時のアメリカ合衆国大統領の である。そして、テロ事件の首謀者とされたビン＝ラーディンが指導者であったイスラーム過激派組織 への報復攻撃が開始された。アメリカ合衆国は、ビン＝ラーディンを保護していた国である のターリバーン政権を打倒すべく軍事行動を遂行し、その後同政権は崩壊した。

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、下線(1～10)に関連するそれぞれの間(1～10)にもっとも適するものを(A～D)の中から一つ選び、解答欄にマークしなさい。

地図の歴史は文字の歴史よりも古いといわれている。文字をもたない先史時代の人々でも、自分たちの集落の近隣にどのような水路があり、どのような植生に囲まれていたかなどを、線や図形をもちいて描いていたようである。生きていくためには、自分たちの居住する地域についての地理的知識を必要としたからである。

こうした自分たちの近隣の地理的知識から、世界的な地理的知識へと考えを飛躍させたのは、古代ギリシア人であった。ギリシア人のなかには世界的な地理的知識を拡大させようと、エジプトやペルシア、さらにはスキティア地方(現在のロシア南部)などの各地を実際に訪れ、多くの地域の知識を吸収した者もいた。ギリシア人の地理的知識をさらに拡大させるきっかけとなったのは、アレクサンダー大王のインド遠征であった。また、これと同時期に、ギリシアの植民都市マッサリア(現在のマルセイユ)のピュテアスによって、北西ヨーロッパ地方の探検航海がおこなわれたとされている。これまでギリシア人によく知られていなかったブリテン島やアイランド島などの北西ヨーロッパの地理的事情もあきらかになってきたもようである。

ギリシア人の地理的知識のもうひとつの大きな進歩は、地球球体説の採用と地球の大きさの測定であった。ヘレニズム文化の中心として栄えたアレキサンドリアにあるムセイオンに招かれた人物は、地球を完全な球体と考え、5,000スタディア離れているナイル川の上流のシェネとアレキサンドリアの夏至の日の正午における影の長さの違いから、両地点間の太陽の見える角度の差を導き出し、地球の周囲の長さを25万スタディアとした。1スタディウム(単数)を178メートルとすると、約4万5000キロメートルとなる。これは、実際の地球の大きさ、約4万キロメートルと比べて1割ほど過大な数値でしかない。

地図の発達に大きな貢献をしたのは、帝政ローマ時代の2世紀にアレキサンドリアを中心として活躍したギリシア人の天文学者プトレマイオスであった。彼は8巻からなる『地理学』を著しているが、そこには当時の人々に知られていた約

8,000の地点の地名と緯度・経度が列挙されている。プトレマイオスの地理書はビザンツ等の写本を通じて今日に伝えられている。彼が実際に地理書の記述をもとに世界図を作成したかどうかはわからないが、一部の写本には世界図が付されている。³

多くの「プトレマイオスの世界図」は半球図で、西はカナリア諸島あたりから、東はインドの東に位置するセリカという国までである。セリカとは「絹の国」の意味であるからその首都セラは長安、すなわち現在の中国の西安と考えられ、地図上ではカナリア諸島と西安の間が経度で180度離れていることになる。⁴しかし実際にはカナリア諸島と西安の間は経度で130度も離れていないので、セラは50度も東に偏していることになる。緯度は太陽や北極星の観測によって古代でも比較的正確に測定できたが、経度の測定はクロノメーターのような正確な時計ができるまでは、旅行者の記録や地理書の記述によって算出されたため、どうしても実際の距離よりも過大になりがちであった。また、プトレマイオスの世界図の大きな誤りは、アフリカ大陸の南端が東に長く湾曲し、アジアの東南端の地域と陸続きになっており、インド洋が大きな内陸海となっている点である。

その後の地図の発達は、イスラーム世界においてなされた。アッバース朝第7代のカリフ、アル＝マームーン(在位813～833年)の治世のときに、バグダードとダマスカスの郊外に天文台が建設され、緯度1度にあたる子午線の長さが測定された。その結果、緯度1度の長さは約113キロメートルと算定され、地球の円周は約4万700キロメートルと、実際の大きさに極めて近い数字がでた。この観測事業に参加したフワーリズミー⁵は、プトレマイオスの地理書を基礎にして、アラブの征服によって得られた知見を加えた地理書を著したが、彼はアジアとアフリカの南端は海洋によってへだてられ、インド洋は内陸海ではなく、外海に連続することをあきらかにした。当時、アラビアの航海者がインド洋からマレー半島⁶をめぐる、東南アジアの海洋にまで進出していたからである。

地球儀は、地球球体説をとっていたギリシア時代にすでに作成されていたが、その後、地球球体説が否定されていた中世では作られなくなり、近世初頭にヨーロッパで地球球体説が認められるようになると、再び作られるようになった。1492年、コロンブスが大西洋を西へむかった年に、マルティン＝ベハイムが作

成した地球儀が現存する最古の地球儀として、ドイツのニュルンベルクの博物館に保管されている。このベハイムの地球儀でもっとも注目されるのは、「プトレマイオスの世界図」が経度 180 度までの半球図でおわっているのに対して、360 度の全球図が描かれている点である。ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の探査結果を反映して、⁷ アフリカは迂回しうる大陸として描かれているが、東方に関しては、プトレマイオスの世界図の東に、マルコ＝ポーロによって伝えられたカタイなどをつけ加えたため、ユーラシア大陸の東端は現在の北⁸ アメリカ西岸近くにまで達し、ジパングは現在のメキシコあたりに位置している。こうした知識が当時の一般的な認識であったとすれば、コロンブスがアフリカ南端を迂回するよりも、大西洋を西航するほうが、はるかに早くアジアの東岸に到達できると考えたとしてもおかしくない。

彼の想像とあまり変わらない航海のはてに、未知の陸地に到達したコロンブスは、そこがアジアの東端に違いないと確信した。しかし、そこは⁹ インドでもジパングでもなく、西ヨーロッパの人々には未知の土地であることが、その後の探検調査によってあきらかとなり、やがて新大陸はアメリカ大陸とよばれるようになった。その後、マゼランの世界周航によって、アメリカ大陸の西側に太平洋とよばれるようになる大洋が存在することがあきらかとなり、世界の探査への道がいっそう開かれることとなった。人々は地球の隅々にまで探検の地域を広げ、当初は未知の陸地の沿岸部に限られていた地理的知識が内陸部、さらには¹⁰ 極地へとおよび、地図は全世界の状況を記すようになったのである。

問 1 下線部 1 に関連して、アイルランドに関する次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

- A シン＝フェイン党など独立強硬派は、第一次大戦中にイースター蜂起を起こした。
- B 第一次大戦後、イギリスはアイルランド自由国を自治領として認めた。
- C アイルランド自治法は、第二次世界大戦の勃発により、実施が延期された。
- D 第二次大戦後、エールはイギリス連邦を公式に離脱した。

問 2 下線部 2 に関連して、この人物の名前を次のなかから選びなさい。

- A エラトステネス
- B アルキメデス
- C エウクレイデス
- D アリスタルコス

問 3 下線部 3 に関連して、ビザンツ帝国に関する次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

- A 7世紀以降、公用語としてギリシア語がもちいられた。
- B トリボニアヌスが『ローマ法大全』を編纂した。
- C ビザンツ様式で建てられたサン＝ヴィターレ聖堂は、現在のイスタンブールにある。
- D 内陸アジアから養蚕技術を導入し、絹織物産業を国家の重要産業とした。

問 4 下線部 4 に関連して、16世紀末から17世紀初頭の中国で活動し、『坤輿万国全図』を刊行した人物を次のなかから選びなさい。

- A アダム＝シャルル
- B フェルベースト
- C ブーヴェ
- D マテオ＝リッチ

問 5 下線部 5 に関連して、イスラームの学問と文化に関する次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

- A イブン=シーナーが『医学典範』を著した。
- B ウマル=ハイヤームが『四行詩集』を著した。
- C シーア派の神学と法学奨励のため、各地にニザーミーヤ学院とよばれる学院ができた。
- D バグダードにある「知恵の館」でギリシア語文献のアラビア語への翻訳・研究がおこなわれた。

問 6 下線部 6 に関連して、1826 年にイギリスが成立させた海峡植民地に含まれないものを次のなかから選びなさい。

- A シンガポール
- B マラッカ
- C ペナン
- D ジャワ

問 7 下線部 7 に関連して、19 世紀のアフリカに関する次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

- A ビスマルクがひらいたベルリン会議で、ベルギー国王の所有地として、コンゴ自由国の設立が認められた。
- B イギリスはケープ・トランスヴァール・オレンジ・ナタールの 4 州からなる南アフリカ連邦を成立させた。
- C イタリアはエチオピアに侵入したが、アドワの戦いで完敗した。
- D アメリカ植民協会が、解放された黒人奴隷をアフリカ西岸に入植させ、その地域はその後リベリア共和国として独立した。

問 8 下線部 8 に関連して、19 世紀のアメリカに関する次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A ジェファソン大統領が先住民強制移住法を制定した。
- B リンカンの大統領選当選をはばむため、南部でアメリカ連合国が結成された。
- C ストウが『アンクル＝トムの小屋』で、奴隷制の悲惨さを描いた。
- D 南北戦争中に大陸横断鉄道が完成した。

問 9 下線部 9 に関連して、ムガル帝国の皇帝に関する次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A バーブルはパーニーパットの戦いでガズナ朝の大軍を破った。
- B アウラングゼーブはヒンドゥー教徒を味方につけるため、ジズヤを廃止した。
- C シャー＝ジャハーンは王妃のためにタージ＝マハルを建てた。
- D アクバルはヒンドゥー教徒を迫害した。

問10 下線部 10 に関連して、北極点に初到達した人物を次のなかから選びなさい。

- A スタンリー B ピアリ C アムンゼン D スコット

〔IV〕 次の文章をよく読み、下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するもの(1～4)の中から一つ選び、解答欄にマークしなさい。

「ヨーロッパ」というまとまりは、中世になって誕生したものである。古代ローマ帝国¹は広い版図を誇ったが、北欧²やドイツ³、東欧の一部は、その支配下に入っていなかった一方で、中近東やアフリカ沿岸は古代ローマ帝国の属州となっていたのである。しかしゲルマン民族⁴やスラヴ民族、そしてノルマン人⁵が移動し、中近東やアフリカ沿岸⁶がイスラーム勢力の支配下に入ることで、徐々に「ヨーロッパ」が形成されていく。さらにローマ＝カトリックがこの地域に広まることによって、同じ「キリスト教世界」⁷という意識が生まれ、それがヨーロッパを形成することになるのである。

しかしそのまとまりを「ヨーロッパ」として意識していたかという点、そうではなかった。この言葉を明確に使った最初の著作は、ローマ教皇ピウス2世⁸であり、彼はその『エウロパ』に続いて『アジア』という著作を執筆している。「ヨーロッパ」という概念が明確になるには、対置されるべきアジアや東洋という概念が必要だったのである。大航海時代⁹以降の新たな知見やオスマン帝国¹⁰の脅威が、その概念の明確化に大きな影響を及ぼしたといえるだろう。

問 1 下線部1に関連して、古代ローマ帝国の皇帝について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 トラヤヌス帝は、五賢帝の一人目である。
- 2 ネルヴァ帝は、初めての属州出身の皇帝である。
- 3 テオドシウス帝は、西ローマ帝国最初の皇帝である。
- 4 デイオクレティアヌス帝は、キリスト教に対する大迫害を行った。

問 2 下線部 2 に関連して、神聖ローマ帝国の領邦とプロイセンについて述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 ブランデンブルク選帝侯国は、15 世紀以降、ホーエンツォレルン家が支配した。
- 2 バイエルン公は、マリア＝テレジアのハプスブルク家継承に反対し、オーストリアの継承権を主張した。
- 3 プロイセン公国の起源は、テンプル騎士団領である。
- 4 新教派の諸侯と帝国都市は、カール 5 世の弾圧に対して、シュマルカルデン同盟を結んだ。

問 3 下線部 3 に関連して、中世の東欧について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 ブルガリア帝国は、14 世紀末にビザンツ帝国の支配下に入った。
- 2 キリル文字とは、ギリシア教会がスラヴ人への布教のために作成したものだといわれている。
- 3 クロアチア人は、12 世紀にビザンツの支配下から脱した。
- 4 ハンガリー王国では、ギリシア正教が盛んだった。

問 4 下線部 4 に関連して、ゲルマン民族やその国家について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 クローヴィスは、アリウス派に改宗して、国家の基礎を築いた。
- 2 ブルグンド王国は、ジュネーヴを中心に建てられた。
- 3 西ゴート王国は、ピピンと戦った。
- 4 ヴァンダル王国が、シチリア島に建てられた。

問 5 下線部5に関連して、ノルマン人やその国家について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 デンマーク王国は、8世紀ごろデーン人によって建てられた。
- 2 ルーシの首領リユーリクは、ノヴゴロド国を建てた。
- 3 ルッジェーロ2世は、両シチリア王国を建てた。
- 4 9世紀に、モラヴィア王国が建てられた。

問 6 下線部6に関連して、10～12世紀のイスラーム国家について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 トゥグリル＝ベクが、マムルーク朝を建てた。
- 2 カラハン朝は、サーマーン朝に滅ぼされた。
- 3 サラーフ＝アッディーン(サラディン)は、アイユーブ朝の建国者である。
- 4 マラケシュは、ホラズム朝の都であった。

問 7 下線部7に関連して、中世のキリスト教教会をめぐる動きについて述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 聖職者の妻帯が問題となった。
- 2 破門された神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世は、カノッサの城で、教皇グレゴリウス7世に赦しを求めた。
- 3 教皇インノケンティウス4世は、アルビジョワ十字軍を主導した。
- 4 教皇ボニファティウス8世は、聖職者への課税権をめぐって、フランス王フィリップ4世と対立した。

問 8 下線部 8 の教皇は、ルネサンス教皇として名高い人物である。これに関連して、ルネサンスの学芸について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 デューラーの代表作の一つに、「農民の踊り」がある。
- 2 地動説などを主張したジョルダナーノ＝ブルーノは、火刑とされた。
- 3 ラファエロの代表作の一つに、友人のエラスムスを描いた「エラスムス像」がある。
- 4 ブラマンテの代表作の一つに、ダヴィデ像がある。

問 9 下線部 9 について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 イベリア半島最南端に位置するセウタは、大航海時代の拠点となった。
- 2 ジョアン 2 世の治世下で、バルトロメウ＝ディアスが喜望峰に達した。
- 3 マラッカ王国は、16 世紀初めにポルトガルによって占領された。
- 4 マニラは、スペインのガレオン貿易の拠点であった。

問10 下線部 10 について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 建築家シナン(スイナン)が、バヤジット 1 世のもとで多くの公共建築に携わった。
- 2 メフメト 2 世は、マムルーク朝を滅ぼした。
- 3 イスタンブルで初めてコーヒーハウスが作られたのは、16 世紀である。
- 4 セリム 1 世は、ニコポリスの戦いでティムール軍の捕虜となった。

〔V〕 百年戦争について、3 行以内で説明しなさい。